



昭和大学歯学部だより

2022年 11・12月号

通算第219号

総合型選抜入試・学校推薦入試・卒業生推薦入試・ 編入学試験が実施されました

<入試常任理事 美島 健二>

10月1日(土)に総合型選抜入試一次試験, 10月22日(土)に総合型選抜入試二次試験, 11月26日(土)に推薦入試・卒業生推薦入試・編入学試験が旗の台キャンパスで行われました。総合型選抜入試は, 初めて実施された昨年度より受験者が増加し41名の志願者から30名(男子11名, 女子19名)の一次試験合格者が決定し, 二次試験で模擬授業および理解度の確認, 面接が実施され, 6名(男子1名, 女子5名)の合格者が発表されました。推薦入試の志願者は卒業生推薦入試を含めて55名で, 32名(男子14名, 女子18名)が合格しました。編入学試験は6名の志願者があり, 合格者は2名(男子)でした。今後の入試日程は, 令和5年2月5日(日)に一般選抜入試Ⅰ期試験と大学入学共通テスト利用入試の面接試験, 3月5日(日)に一般選抜入試Ⅱ期試験が実施されます。教職員の皆様には, ご協力のほど, よろしくお願ひ申し上げます。



学生懇談会が開催されました

<教育委員長 船津 敬弘>

秋期の学生懇談会が10月25日に開催されました。学生側からは2年生~5年生のクラス委員が出席し, 教員は榎歯学部長, 野中学生部長, 坂井D6チューター議長, 教育委員会からは生化学の矢野講師と私が参加いたしました。講義に関しては, 講義室の正面スクリーンへのレーザーポインター照射は, モニター越しやWEB講義では反映されないためPC内のポインター機能の使用や, 通学時間がかかる学生もいるため, 1日の中でオンラインと対面を混在させない等の要望がありました。実習ではライターが行うデモの際, 学生の模型を使用しないでほしい等の要望が出されました。生活面では学食の混雑改善や, 生協の開店時刻変更希望なども出されました。榎歯学部長からは学生代表に対し, 歯学の面白さを学ぶために, 是非積極的に授業や実習に取り組んでいただきたい旨のお話があり, そのために学生生活がより良くなるよう, 今後も改善を検討していくこととなりました。

- P.1 【入試】入試常任理事 美島 健二教授
【学生懇談会】教育委員長 船津 敬弘教授
- P.2 【松本光吉先生が瑞宝中綬章を受章されました】歯内治療学部門 鈴木 規元教授
【解剖慰霊祭】口腔解剖学講座 野中 直子教授
- P.3 【学士会】学士会運営委員(学術部) 山本 松男教授
【学生実習風景】口腔衛生学部門 弘中 祥司教授
【コロナ禍でのインフルエンザ対策】総合内科学部門 木庭 新治教授
- P.4 【研究紹介】口腔病理学部門 田中 準一講師
【受賞】大学院4年(小児成育歯科学専攻) 山口 真帆先生
大学院3年(口腔病理学専攻) 大沼 慎太郎先生

松本光吉先生が瑞宝中綬章を受章されました

＜歯内治療学部門 鈴木 規元＞



秋の叙勲において、歯内治療学部門名誉教授である松本 光吉先生が瑞宝中綬章を受章されました。松本 光吉先生は、昭和38年に東京医科歯科大学歯学部をご卒業後、昭和58年から26年の長きにわたり当部門の教授を務められ、また昭和大学図書館長も兼任されるなど、昭和大学歯学部創成期よりその発展に大きく寄与されました。在職中は、留学生の受け入れや海外での講演など、常に国際的視野をもって幅広く教育活動が続けられるとともに、歯内療法へのレーザーの応用について深く研究され、日本におけるレーザー歯学の第一人者として長年にわたり活躍されました。昭和大学そして日本の歯科医療・歯科医学の発展に大きく貢献され、今回の受章の栄誉となったものと存じます。現在は、歯科界からは引退され、ご実家で農作業などをされながら、お元気にお過ごしでいらっしゃいます。

先生のご受章を心よりお祝い申し上げます。

解剖慰霊祭が挙行されました

＜口腔解剖学講座 野中 直子＞



令和4年度解剖慰霊祭が10月18日(火)午後2時より、昭和大学上條記念館において挙行されました。本年度慰霊された御霊は、解剖実習や病理解剖のために供された方々で、歯学部の解剖実習のためにご献体された19柱も含まれております。コロナ感染拡大にともない、昨年同様ご遺族のご参列は叶わず、大学関係者のみの参列となりました。開式の辞に続き、物故者のご冥福を祈り黙祷が捧げられました。昭和大学を代表して藤が丘病院の小川 高史准教授が祭文を述べ、続いて医学部・歯学部の学生代表が弔辞を述べました。歯学部からは2年生の古屋 拓真君(写真)が、ご献体いただいた方々への感謝の気持ちを述べ、貴重な解剖実習の経験をふまえ、勉学に励むことを御霊に誓約いたしました。久光 正学長のご挨拶に続き、歯学部からは榎歯学部長・馬場歯科病院長・美島教授・野中が参列し祭壇前で献花を捧げ、閉式となりました。

なお、当日の解剖慰霊祭については動画にて配信し、学生や関係者は視聴しております。

行事予定

- ・1月28日(土)・29日(日) 第106回歯科医師
国家試験
- ・2月 4日(土) 医学部一般選抜入試利用歯学
部併願入試
- ・2月 5日(日) 歯学部一般選抜入試(I期)・
大学入学共通テスト利用入試

認定医・専門医取得

- 日本障害者歯科学会認定医
- 五十嵐 悠
(小児成育歯科学講座 助教(歯科))
- 姜 世野(障害者歯科学部門 大学院4年)
- 佐藤 ゆり絵(障害者歯科学部門 大学院4年)

学士会が開催されました

<学士会運営委員(学術部) 山本 松男>

令和4年12月3日(土)に、第69回昭和大学学士会総会がハイブリッド形式(4号館6つの教室およびウェブ)で開催されました。総務部・学術部・雑誌部・会計部からの報告の後、昭和大学学士会学術奨励賞授与(7名)に引き続き、教育講演(1)「日本一の医学教育カリキュラムを目指す昭和大学の挑戦」(医学教育学講座 泉 美貴教授)、(2)「PCRセンターからみた新型コロナウイルス感染症」(薬学部感染制御薬学部門 石野 敬子教授)、(3)富士吉田教育部の新英語教育カリキュラムについて(富士吉田教育部英語科 高橋 留美教授)の三講演が会場参集とZOOMによるライブ配信でおこなわれました。一般演題および学位論文内容発表の58題については、6会場に分散して口頭発表形式にて行われました。新型コロナウイルス感染症第7波が落ち着きを見せたと思った矢先、第8波がすぐに迫ってきているような状況でしたが、昭和大学が定めた感染対策ポリシーに従った厳密な管理とこれまでに蓄積したハイブリッド開催運営の経験により、スムーズな開催となりました。最新の研究成果だけではなく、新型コロナウイルス感染症も乗り越えていく力強い昭和大学の実力を示すことにもなった印象深い総会となりました。

～学生実習風景～D1初年次体験実習

<口腔衛生学部門 弘中 祥司>



石膏模型を作るD1学生
慣れない手つきでひと苦労

令和4年10月5日～19日にD1初年次体験実習が実施されました。これまでは、山梨県内の歯科医院を見学する実習でしたが、コロナ対策と1年生のモチベーション教育の一環として、昨年度から3班に分割して歯科病院の診療科を見学する実習に切替えました。実は、昨年度の学生がとても有意義な学びであった事を報告会で報告したところ、他学部から「歯学部だけ羨ましい」「自分の大学の病院を見学したい」との意見が噴出して、めでたく本年度からは全ての学部で本学附属病院の見学実習が叶いました。自分としても良かったと思っております。富士吉田の寮から朝早くバスに乗って歯科病院に10時30分くらいに

到着し、ガイダンスを行ってから午前中は模型作りを、そして午後からは各々3つの診療科を見学して、寮への帰路に着きました。バスに乗り込む際の学生の顔は晴れやかで、満足気でした。本実習に携わった関係諸氏に、この場をお借りして感謝致します。

コロナ禍でのインフルエンザ対策

<総合内科学部門 木庭 新治>

例年1月～3月に流行する季節性インフルエンザは2020年2月以降、流行の兆しはありません。2020年3月、WHOによる新型コロナウイルス感染症のパンデミック宣言以来、世界的な人の往来制限や感染対策がインフルエンザの流行阻止に影響したと考えられます。ウイズコロナ時代で、行動制限が解除された今、インフルエンザの流行が危惧されます。

2022年5月～7月冬を迎えた南半球のオーストラリアでは例年よりも早く、また、2019年以来のインフルエンザの大流行がみられました。このことから、今年の日本の冬はコロナ第8波とインフルエンザの両感染症が心配されます。両感染症は飛沫による人から人への感染です。マスク、手洗い、うがい、アルコールによる手指消毒は予防の根幹です。



研究紹介: Nat Cell Biolに掲載されました

<口腔病理学部門 田中 準一>

2022年11月号のNature Cell Biologyに口腔病理学部門が主体となり行った研究が掲載されました。本研究は世界に先駆けてヒトiPS細胞から3次元的な唾液腺組織を分化誘導したものです。さらに分化誘導した唾液腺組織に新型コロナウイルスが感染し複製することも示すことができました。このヒトiPS細胞由来の唾液腺組織は、シェーグレン症候群や頭頸部がん放射線治療後の唾液腺障害に対する再生医療のツールとして期待されるほか、唾液腺疾患メカニズムの解析、創薬ツールとして有用であることが考えられます。本研究成果はNature Cell Biology11月号の表紙にも採用され、口腔領域の研究を世界にアピールすることができました。私は本研究のリバイス時期にはアメリカのコロンビア大学に留学しており、学内外の共著者の先生方のご尽力により本研究を報告できたことを、この場を借りて感謝申し上げます。



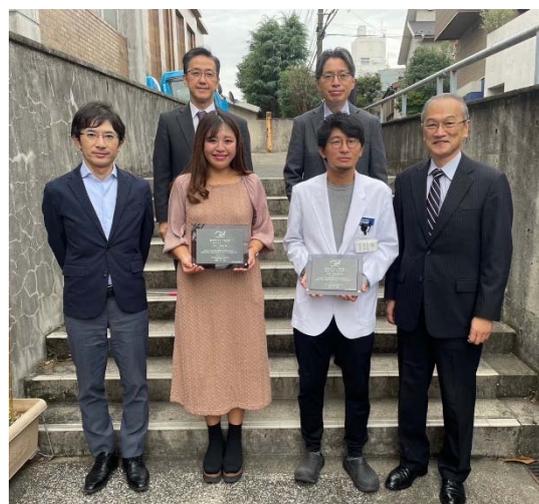
コロンビア大学での研究ミーティング風景

歯科基礎医学会学術大会 モリタ賞を受賞しました

<大学院4年(小児成育歯科学専攻) 山口 真帆, 大学院3年(口腔病理学専攻) 大沼 慎太郎>

9月17日～19日に徳島県で開催された第64回歯科基礎医学会学術大会に参加し、各分野で最も優れた成果を発表した若手研究者に贈られる、モリタ優秀発表賞を受賞しました。

薬理学部門: 演題名「妊娠マウスへの骨吸収抑制薬投与は仔マウスの歯の成長障害をもたらす」。臨床との両立や難しい実験に苦悩もしましたが、苦しくても1つ1つ丁寧に正面から向き合ったこと、諦めなかったこと全てが質を高めることに繋がりました。また、その都度支えてくれた方達の想いが背中を押してくれました。指導・応援して下さった高見正道教授、坂井信裕先生、歯科薬理学の先生方、小児歯科学の先生方に心から感謝申し上げます。(小児成育歯科学 山口真帆)



解剖学・組織発生学部門: 演題名「脱細胞化技術を応用した人工唾液腺の作出」。私は美島健二教授の「Science is tough」と、田中準一先生の「誰も取りたがらないデータにこそ価値がある」という言葉を念頭におき、日々研究に励んでいます。今後も一つ一つのデータを大切に、新しい発信ができるよう邁進いたします。最後になりましたが、美島健二教授、医局員の先生方、共同研究先の先生方に深く御礼申し上げます。(口腔病理学 大沼慎太郎)

昭和大学 歯学部だより 通算219号 2022年12月発行

発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎 編集責任者: 広報委員会委員長 野中 直子

11・12月号編集委員: 唐川 亜希子(広報委員会)

〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp>